

瓶とポピー

佐久間 若葉（さくまわかば） 主人公。本屋で働き始めたばかり。
丸山 佑（まるやまたすく） 若葉の同僚。勤務態度が良くない。若葉には気になる存在。
水無瀬 史佳（みなせりか） 若葉の親友。友人想いであると同時に、恋愛体質。
立田 健司（たつたけんじ） 若葉たちが務める本屋の常連。史佳の上司。

#1

(回想・本屋)

若葉 2022年、12月1日 はじめて、弦屋に出勤した。
久しぶりに乗る電車に、なんだかくらくらした。
早朝の気配と、本屋特有のつるんとしたようなにおいが混ざったお店で
変に緊張した。

(社員) それでは、本日も社訓の唱和をお願いします

私たちは、人と書籍の出会いを創り、支えます

若葉 私たちは、人と書籍の出会いを創り、支えます

(社員) 私たちは、どこまでも真摯な接客にこだわります

若葉 私たちは、どこまでも真摯な接客にこだわります

(社員) 私たちは、どんなニーズにも応える品ぞろえを約束します

若葉 私たちは、どんなニーズにも応える品ぞろえを約束します

(社員) 私たちは、書籍の輝かしい未来を担う存在となります

若葉 私たちは、書籍の輝かしい未来を担う存在となります

佑 …

若葉 …

(社員) 丸山さん

佑 はい

(社員) 社訓の唱和をお願いします

佑 嫌です

(社員) え？

佑 僕は「私たち」の一員ではないので、言いません

(社員) … 契約社員の方であっても、弊社の理念実現に向けた一員です

佑 僕は理念の実現に向けて働きたいとは思っていません

(社員) 社訓の唱和をお願いいたします

佑 業務上の責任は果たします そのうえで理念への共感は unnecessary

(社員) ……

#2

(カフェ的な)

史佳 え？

若葉 え？

史佳 え、ちょっと待って いまの話、なに？

若葉 え、史佳がきいたんだよ 新しい職場の話

史佳 うん それはわかったけど… なにその… 社訓の唱和って
入社式的なやつでってこと？

若葉 ううん、じゃなくて 毎朝やるみたい

史佳 毎朝！？ あんたの店、7時からあいてんのに？

若葉 開店前に朝礼があるの、朝シフトの人は参加必須なんだって

史佳 昭和じゃん

若葉 でも朝礼は前の会社でもあったよ？

史佳 前の会社と同じもんがあるって、ぜんぜんいいことではないよ

若葉 それは そっか(笑)

史佳 そっか(笑) じゃないんだよ

若葉 ごめん まあでも、ちよつと早起きすればいいだけだしさ

史佳 うーん… 会社もだけど その… その同僚？はなに？

若葉 社訓やんなかった人？

史佳 そお

若葉 丸山佑さんって言って わたしの同期？ になるのかな 年上だけど

史佳 えっ、おじさんなの！？ モンスター新卒かと思っただけ

若葉 おじさんってほどではなくて、私たちよりちよつと上くらい

史佳 えく… いやでも、その年でその感じ モンスターではあるくない？

若葉 そうかな

史佳 うん やば会社のやば同僚じゃん

若葉 かもね(笑)

史佳 だから、かもね、ってさあ…大丈夫なの？

若葉 え？

史佳 なんか、せつかく、たのしく働けそうなところって言って本屋さんにしたんじゃん

若葉 うん え、たのしいよ？

史佳 いや なんか、やば会社にやば同僚じゃん

若葉 そんな そこまでじゃないよ

史佳 あんたの「そこまでじゃない」は信用ならん

若葉 うーん… それいわれちゃうと

史佳 きつかったらやめなよ？

若葉 やめないよ さすがに、半月だし

史佳 そういう問題じゃないって

若葉 うん、大丈夫 ありがと

史佳 ……もー

若葉 ……

若葉　なんか　史佳が安心するかわかんないんだけど
史佳　ん
若葉　会社はともかく、丸山さん…　は大丈夫
史佳　え　丸山って、そのモンスター同期？
若葉　いや、ほんとそんなやばい人じゃないんだって　すごく仕事できる人だし
史佳　でもなんか　態度はソレなんでしょ？
若葉　まあ
史佳　いくら仕事できてもどうかと思うけどね
若葉　でも　でもなんか、丸山さんはちがう…よ
史佳　え？
若葉　もう何回かシフト一緒になったんだけど　なんか…　丸山さんといっしょだと
元気になる感じする
史佳　…え？？
若葉　なんか、納得できないルールは無視しちゃうとか、そういう感じのね、
丸山さんが丸山さんっぽいことしてると、さすがだなぁって思うというか
みてるこっちはたのしいっていうか…　まあ、まだ半月だからよくわかんないけど
史佳　……え、　好きなの？
若葉　え？
史佳　え、え、好きなの？　そのひとのこと
若葉　いや　面白い人だなって思ってるけど
史佳　じゃなくて。　「LOVEのほうだよ」？
若葉　「LOVEって…　え　そういう　…好き…　ではないよ
史佳　え、でもなんか　いっしょにいと元気になるっちゃうんでしょ？
若葉　そうだけど　…そうだけど、そういう人っていない？
史佳　いや　え、ちょっと待って
若葉　なに？
史佳　〇×　若葉、目つぶって
若葉　え、はい
史佳　その、同僚の人のフルネーム教えて
若葉　え　…丸山佑さん
史佳　〇×　若葉、その人の下の名前だけ言ってみて
若葉　え　…たすくさん
史佳　…
若葉　…
史佳　……え、これ何？
史佳　若葉　目開けて
若葉　え、はい

史佳 ……

若葉 ……なに？

史佳 ……やっちゃってるわ

若葉 え？

史佳 いまのはね、もうね、恋しちゃってるわ

若葉 いやいやいや なにいつてんの、

史佳 え〜〜〜ちよつと待って嘘でしょ？ 若葉の恋バナとか初めてじゃない？

若葉 ちよつと待ってって、恋バナとかじゃないってば

史佳 嘘だって やっちゃってる顔してるって まじ？ 相手モンスターじゃん

若葉 モンスターではないもん

史佳 ほらもう 「もん」とか言っちゃってるもん

若葉 関係ないでしょ ほんと、恋とかじゃないって

史佳 じゃあ何？

若葉 ……え

史佳 恋じゃないなら、それ、何？

若葉 なにって ……わかんないよ、面白い人がいるよ〜ってだけで…

史佳 若葉、ひとつ、あたしから宿題を出します

若葉 宿題？

史佳 「佑さん」への気持ちをはっきりさせなさい。

若葉 え ……なにそれ 少なくとも付き合いたいとかは思っていないし、
どつちでもよくない？

史佳 あのねえ 若葉はわかってないみたいだけど、恋って、超！ 大きいんだよ

若葉 大きい？

史佳 なんていうの、いろいろあるじゃん 仕事とか友達とか趣味とか。

そういうのなかでも恋って超大きいんだよ

生活ぜ〜〜んぶ、恋にもってかれちゃうことだってあるし！

若葉 ……なるほど？

史佳 事実、あたしも今、生活の6割、たかきゆんのこと考えてるからね？

若葉 出た。かれし、元気？

史佳 元気 いや、それはいいのよ

何が言いたいかっていうと、自覚がない恋っていうのはいつちばん危ないの
自分で気が付かないうちに生活がめちやくちやになりかねないんだから

若葉 ……

史佳 あたしからするとさ、その、丸山さん？ はあんま優良物件には思えないよ
でも、それが「恋だ！」ってわかんないほうが全然だめ。

だからちゃんと、そこをはっきりさせんの

若葉 言いたいことはわかったけど …どうやったらはつきりするの？

史佳 知らない

若葉 え

史佳 いや、あたし、好きだ〜！ってなったら、うわ〜好き〜！ってなるから
そんなふわふわした感じになったことないし、わからん

若葉 …無責任

史佳 なんとでもいいなさ〜い でも、…ちよつとちやんと考えてみてよ

あたしなりに、心配してんだからさあ

若葉 …わかったよお

#3

(本屋)

佑 …だから、言ったじゃないですか いらっしやいませ〜も、

ありがとうございます〜も

健司 うん だけど、もっとハキハキした声のほうがいいよ、という助言だよ

この店は駅近くで一番はやくやっている本屋だからね、出勤前に立ち寄る人も多い
挨拶は気持ちよいほどいいだろう？

佑 あーはい、わかりました

健司 ほら、君、そういうところだよ 確かに俺はめんどろな客だろう

でも何もクレームをつけようというんじゃないんだ、もう少しお互いに、
気持ち良い態度を心がけたいんだ

佑 わかりましたって …あ

若葉 …あ あの おはようございます

健司 あまり長居しても迷惑だろうから、俺はもう行くけどね
ぜひ、今日のことを参考にしてみてください それじゃあ

健司 Out

若葉 …丸山さん あの おはようございます…？

佑 おはよ

若葉 いまのって、毎朝来る人ですよ

佑 そ 俺の接客態度が気に食わないんだってさ

若葉 え 大丈夫でした？

佑 クレームじゃなくてご助言らしいから？ 大丈夫なんじゃない？

若葉 そう… ですか

佑 朝からやっつてらんないよね

若葉 …気にはないんですけどね

佑 あんなんどうでもいいよ

若葉 そうですか …さすがですね

佑 ほめてないでしょ

若葉 ほめてますよ！

佑 ていうか、さすがって言ったら佐久間さんもじゃん

若葉 え？

佑 シフト ほんとは一時間後からなのに

若葉 ああ だって、齋藤さん寝坊しちゃってるっぼいんですよ？

佑 そうだけど 当日の7時に急に代打出勤頼まれてくるのってすごいよ

俺ならぜったい引き受けない

若葉 朝シフト多いので、今日も習慣で早起しちゃってたんです

だからまあ、ちょうどいいかなって

佑 ほんとに？ まあ、俺は来てもらって助かったけどね

若葉 はい

佑 …なに？

若葉 えっ？

佑 いや、なんか …めちゃくちゃみてくるから

若葉 え、みました？

佑 うん え、俺、なんかおかしいところある？

若葉 ちがいます、ちがうんです …そういう日？ なんです

佑 …へえ

若葉 混み始める前に、掃除しちやいますね ついでに自分の買い物してもいいですか

佑 うん

若葉 ……

佑 …ミリタリー好き？ 恋愛好き？

若葉 え

佑 有川浩

若葉 あ ご存じですか

佑 「あ」で止まったら掃除進まないじゃん

若葉 ごめんなさい

佑 いや、今は人もいないし、いいと思うけど

若葉 …丸山さんも、こういうの読まれますか？

佑 何作かは読んだよ だから、ミリタリー好きか、恋愛好きか、どっちかなって

若葉 きよ うは恋愛要素を楽しむほうの気分でした

佑 そっか じゃあ、俺よくわかんないほうだわ

若葉 ミリタリ―要素たのしむほうなんですね

佑 つぼくない？

若葉 かもです

佑 佐久間さん、けっこう本買うよね

若葉 え あ、はい 本好きです 大学も文学部で

佑 マジで？ 俺も

若葉 そうなんですか？

佑 うん

若葉 わ …なんか 社会人になってから同じ学部の人に会うの、新鮮です
佑 前の職場にはいなかったの？

若葉 どうなんでしょう いたのかもしれないんですけど、なんか、
そういうの覚えてなくて

佑 そういうもんか

若葉 …はい、まあ あの、丸山さんはどんな本が好きなんですか？

佑 俺は、まあ、いろいろ？

若葉 いろいろですか

佑 うん 逆に、これっていうのはないかも

若葉 なるほどです

佑 …混み始める前に、ちよっとトイレいつてきていい？

若葉 あ、もちろん

佑 ありがとう

佑 Out

若葉、スケジュール帳を取り出す

若葉 …顔をみていると、ちよっと元気になる気がする。

…話を振ってもらえたのは、けっこう嬉しい。

…共通点があったのはかなり嬉しい。

…けど、これは丸山さんじゃなくてもうれしいかも。

好きなものをちよっと知れたことは、嬉しい。

若葉、スケジュール帳をとじる 目を閉じる

若葉 …… 佑さん

佑 え？

若葉 え あ

佑 え、いま呼んだの 俺？

若葉 あ、いや、あの、すいません

佑 別にいいけど なに？

若葉 いや… ただなんか、急に、「佑」って名前、珍しいなって

佑 あく まあ、たまによくいるって感じだけど

若葉 はじめて会いました

佑 俺も会ったことはない 丸山もだけど

若葉 ほんとですか？ 丸山は逆に 何人かいたかもしれないです

佑 へー まあ俺、ほぼ苗字で呼ばれないから意識してないだけかな

若葉 苗字、呼ばれないんですか？

佑 うん なんかダサい感じるじゃん

若葉 そうですかね…？

佑 俺はね

若葉 ……え、じゃあ、あの。なんですか。

佑 佑さんって 呼んでもいい…ですか？

佑 俺？

若葉 はい あ、嫌だったらいいですけど

佑 別にいいよ

若葉 わ え ほんとですか

佑 うん っていうか、佐久間さん俺に対してかたすぎるし

一応同期なんだしさ

若葉 でもあの 年上ですし

佑 なんでもいいけどね

若葉 え、でもじゃあ ……佑さんって 呼び…ます。

佑 うん

#4

(電話)

若葉、スケジュール帳をみながら史佳と電話

若葉 ……と、というのが 今朝のシフトの 進捗…です

史佳 ……

若葉 史佳？
史佳 …あまずつぺえなあ！
若葉 え
史佳 いやなんか あたし、見極めてこいって宿題出したんだよ？
なに進展させちゃってんの
若葉 進展してないよ
史佳 だってもう 佑さんになっちゃってんじゃん
若葉 それは成り行きだし
史佳 ってかその成り行きも怖いよ 店で「佑さん…」って独り言言ってるんじゃないわよ
若葉 だつてこないだ史佳が それでわかるとか言ってたから
史佳 だからって本人がいる空間でやるやつがあるかい
若葉 まあ…
史佳 …で、その 答えは出ちゃったの？
若葉 まだ
史佳 まだなんだ
若葉 史佳と話して今日まで、自分なりにいろいろ考えてみたの
史佳 うん それはいいじゃん
若葉 恋愛映画に恋愛ドラマ、恋愛小説とマンガ、さらに恋愛ソングを網羅してみて、
チェックリストを作ってみたのね
史佳 は？
若葉 それがさっき言ったやつで 今日ほ5項目くらい当てはまったんだけど…
史佳 ちょ、ちよつと待って
若葉 はい
史佳 まじめにやりすぎ
若葉 え？
史佳 いや確かに ちゃんとしなとは言ったけど… そこまですることじゃないから
もつとシンプルに考えていーから
若葉 え、でも
史佳 わかった、あたしが曖昧な言い方したのも悪かったよ
あたしは …あたしは、心配してんの
若葉 心配？
史佳 史佳 あんたから恋バナ聞くタイミングが今なのが、心配なの
若葉 どういうこと？
史佳 あんたさあ、前の会社やめてから、半年もたたずに再就職したじゃん
若葉 うん 休んでも落ち着かなかつたし
史佳 でもあたしは あんたはもーっと休んでもいいようにみえてたの

それがさっさと復帰しちゃって、しかも職場けっこうきつそうだし……
っていう、今のタイミングでの恋バナだよ？

若葉 よくわかんないよ

史佳 ……仕事をするために、その人への好意に縋ってないかなって思ってるの
若葉 縋ってる？

史佳 嫌な言い方だったらごめん でも、あんたは仕事してないと落ち着かなくてさ、
それなのにあたらしい職場もけっこうきつそうな気配するじゃん
だから、佑さんへの好意をエンジンにして、無理やり動いてたりしないかなって
いう心配！

若葉 それは ……なるほど？

史佳 こないだも言ったけど 恋ってホント大きいからさ

特に、仕事とごちゃごちゃにすんのはやめたほうがいいと思うの

若葉 ……仕事と、ごちゃごちゃに。

史佳 そ 仕事でおかしなことやつらいことがあっても 好きなひとと同じ環境にいたら
なんだって出来るようになっちゃう 離れらんなくなっちゃう
それってなんか、幸せじゃないじゃん？

若葉 ……うん

史佳 あたしはさあ 若葉がそういうふうになんのはやめてほしいの
でも、恋って何？で思いつめちやっても、意味ないから

若葉 なんか、ありがと

史佳 もっと、シンプルに考えてみてよ そもそも若葉は、なんでその人が気になんの

若葉 え それはなんか………なんだろ？

史佳 最初のモンスターエピソードもさ、目を引くのはわかるけど

そっから好きってなるのは、あたしにはわかんないから 今度おしえて

若葉 ……わかった

史佳 じゃあ、いったん切るよ？ またね

#5

(オフィス)

健司 水無瀬さん

史佳 ……あ お疲れさま、です

健司 ずいぶん長く電話していたが いまのは私用の電話かな？

史佳 ……そうです 学生時代の友人と

健司 学生時代の友人と、わざわざ仕事の昼休みに電話？

史佳 向こうがシフト制の仕事で、いまちょうど終わったらしいんで

健司 なにか急ぎの用事だったならいいが もしそうでないのなら、

社会人としてお互いに自立の意識をもったほうがいいと思うが

史佳 …いろいろあるんです。それに、昼休みだから自由ですよ

健司 もちろん。だが、業務再開の5分前にはオフィスに戻っているようにしなさい

史佳 間に合ってればいいでしょう

健司 間に合う間に合わないではなくて、姿勢の話だよ

史佳 ……後は改善に努めます

健司 ぜひ、そうしなさい

史佳 …あの立田さんってなんでそんなに真面目なんですか

健司 仕事に真面目に取り組むのは社会人の義務だろう

史佳 そうですね、それはそうなんですけど ……なんていうか モチベーション？

健司 この仕事が好きだからだね

史佳 仕事内容ですか？ 会社じゃなくて？

健司 まあ、会社もあるな。社長には恩義があるし

史佳 ……恩義ってというのは、奥様の分まで？

健司 ああ、妻が前線を引くまでは夫婦そろって世話になったし、式にも参列してもらっているし

史佳 奥様もこの会社が好きなんですか？

健司 ……どういう質問だ？ 社内に恋人でもいるのか

史佳 いません！ セクハラですよ

健司 それは申し訳ない ……まあ、妻もこの会社は好きだと思っよう

家庭に入ってもらったのは本当に忍びなかつたくらい

史佳 ……ふーん、それじゃ、立田さんは、この会社辞められませんか

健司 まあ、辞める気になることはないよ

史佳 ですよえ

健司 ……ちなみに、いまはまだでも社内恋愛するなら応援しよう

妻と仕事の話ができるというのは楽しいし、つらいときは支えあえるし

普段の生活からお互いに高めあえる関係から夫婦になれるというのもいい

史佳 飲み会のたびに仰ってますよね、それ

健司 そうか

史佳 社内恋愛はしませんよ

あたし、立田さんみたいに生活せざる仕事になるの嫌なんです

健司 別に生活ぜんぶ仕事にしているつもりはないが…

史佳 まあ、カチカチは人それぞれのことです

健司 なるほど。まあ、なにかあれば相談してくれ

部下とあまりそういう話をしたことはないが、力になれるよう努めるよ

史佳 …はあ〜い

#6

(若葉の家的な)

若葉 ……2020年、2月29日

『わたし以外のだれかによって、切り取られた景色が好き。』

同じ季節の同じ時間、同じ場所でも、だれかの景色はわたしの景色ではないこと
それがなんだか、たまらなく好き。

誰かの景色やわたしの景色をつかまえて、言葉にして、写真におさめて、
とどけられたらいいな。

そうして、世界をいつもより丁寧にみられたら、きっと毎日たのしいな。
だから …… だから…』

若葉、スケジュール帳を閉じる

若葉 もっと もっと

もう少し

頑張れると思ったんだけどなあ

#7

(本屋)

若葉 おはようございます

若葉入ってきて、佑なんかわたわた

佑 あ おはよう 今日めちやくちや暇だよ

若葉 やっぱり この立地で、休日は誰も来ませんよね

佑 ね ひとりシフトにするくらいなら店閉めたらいいのに

若葉 ……なにしてたんですか？

佑 え

若葉 なんか珍しく、作業みたいなしてるようだったので

佑 別にこれは ……仕事？

若葉 え、佑さんって、ここ以外に仕事してるんですか

佑 まあ 別に なんでもないよ

若葉 ……あ、ごめんなさい、なんかぐいぐいきいきちゃって

佑 いや まあ、いいけど

若葉 はい

若葉 ああ
佑 ん？
若葉 あの、私と佑さん、ふたりシフト多いですよ
佑 うん 俺が煙たがれてるから、佐久間さん押し付けられてんだよ
若葉 皆さんきつと、佑さんがどういう人か知らないだけです
飲み会とかも来ないじゃないですか
佑 来ない時点で「そういうやつ」ってことでしょ まあ、一生いかないけど
若葉 あの、一応 わたしは佑さんのこと煙たがってないです
佑 それは伝わってるよ
若葉 よかったです なんか、むしろわたしは 佑さんみたいに出来たらいいんですけど
佑 え？
若葉 要らないと思うことはやらない、みたいな
佑 あー まあ、俺はふまじめなだけよ
若葉 でも、佑さんは やることはやるじゃないですか
佑 そうね、責任感だけはあるね 最低限
若葉 そういうの 上手くできていいなとおもいます
佑 別に、上手いとか下手とかでもないよ
若葉 そうですかね
佑 うん
若葉 …難しいですね
佑 なにが さぼんのが？
若葉 ん、なんというか こっちの話です わたし迷走しているんです
佑 まあ 佐久間さんまじめだからな
若葉 そういうんじゃないんですけど…
若葉 いらっしやいませ あ
立田 おはよう
若葉 立田さん 休日来るのは珍しいですね
健司 ふと気が向いてね 休日を充実させる方法や考え方の本を買おうと思って
佑 休みの日に、休みを充実させる方法の本を読んで過ごすすんですか？
健司 ああ
佑 ふつうに、読書して過ごせばよくないですか
休日を充実させる方法や考え方の本を読んでるうちに休日終わるでしょ
健司 まあ、読書もちろん選択肢のひとつだが、それが正解とは限らないだろう
佑 正解って…へえ
健司 丸山くんはついに客の買い物にまで不満を言うようになったのか

それはあまり感心しないな

佑 ……はいはい、すいませんでした

健司 そういうわけで、佐久間さん なにかそういう書籍でおすすめはあるかな

若葉 え わたしですか

健司 ああ 丸山くんはそういう対応はしてくれなさそうだから

佑 そうですね 専門外なんで

健司 なんだったら専門なんだ？

佑 ……どちらかといえばまあ 現代小説とか

健司 現代小説か… 嫌いではないが今日の目的にはそぐわないな

佑 わかってますって もう、俺の話いいじゃないですか

佐久間さんはなんかあんの？

若葉 ……その、そうですね それなら ……

健司 うん

若葉 ……まちあるきとか そういう雑誌を わたしなら買います

健司 街歩き？

若葉 散歩とかが好きなので わたしは あの、こういう雑誌は、休日の過ごし方とか、

そういうのも踏まえて書かれてるような気がするの

健司 それはいいな 具体的にはどれがおすすめるのかな

若葉 ちようどそこに 特設コーナーがありますよ

健司 ああ ……じゃあ、そうだな…

若葉 あの、でも、あくまでわたしの意見ですよ

健司 店員さんの意見はぜひ聞きたいだろう

佑 すいませんね、「充実した休日の正解」なんて考えたこともなくて

若葉 ……佑さんって、休みの日はなにしてるんですか？

佑 え？

若葉 あ、いや、なんとなく

佑 別に 俺は…は…… 別にまあ、なんということもしてないよ

健司 よし、これにしようかな

若葉 ありがとうございます

健司 こちらこそありがとう また、平日に来るよ

若葉 はい、ありがとうございます

健司 Out

佑 ……散歩も別に「正解」ではないよね

若葉 ですね

佑 まあでも 正解の休日が載ってる本なんてこの世にないしな
若葉 おすすめが聞きたかっただけじゃないですか？
佑 いい年してそんなこと聞いてくるなよって感じだけどね
若葉 …佑さん、立田さんのこと好きじゃないですよね
佑 うん ああいうタイプ好きじゃない やたら突っかかってくるし
若葉 おしゃべりが好きなんですよ
佑 何聞かれたって俺からあの人に言うこととかないけどね
若葉 佑さんってけっこう 謎多いですよ
佑 そう？ そんなことないと思うけど
若葉 自分のこと あんまり話されない気がするの
佑 みんなこんなもんでしょ あ、ていうか 雑誌、売れてよかったね
若葉 え
佑 あの特設？って、佐久間さんが店長に提案したやつでしょ
若葉 あ、はい …ご存じでしたか
佑 うん、どっかで聞いた
若葉 なんか恥ずかしいです
佑 恥ずかしいことではないですよ
若葉 そう ですか …あ
佑 ん？
若葉 あれ、これって 立田さんの… じゃないですか？
佑 え …あー、たしかに …っていうか今日、まだあの人しか来てないから絶対そう
若葉 ですよね
佑 めんどくさ 取りに来るかな
若葉 さすがに財布ですし、近くにいるなら届けたほうがよくないですか？
佑 わたし、行ってきますよ
佑 や、それなら俺行くからいいよ
若葉 え、でも
佑 佐久間さんが行くとおのおっさんの話に付き合わされそうじゃん
若葉 それはまあ…確かに
佑 でしょ 行ってくる
若葉 あの、すいません
佑 別にいいよ

佑 Out

若葉、スケジュール帳を出す

若葉 ……ふたりでいることを嫌がられてはいなさそうで、嬉しい
わたしが他の人に話したことを知られて、嬉しい

若葉、佑がさわっていたファイル的なものをみる

若葉 佑さんのことをわたしは全然知らなくて、そのうえで
…触れてほしくなさそうなものがあるのはさみしい

若葉 ……ごめんなさい わたしたぶん ちょっと迷走してます

若葉、ファイルみる しばらくみる

若葉 ……これ

佑、もどってくる

佑 戻りました

若葉 わ はい おかえりなさい

佑 電車乗られてたらめんどうだとおもったけど、駅前のベンチで読んでたわ
家で読めよな

若葉 あの、でも、会えてよかったですね

佑 まあね

若葉 ……あの 佑さん すみません

佑 ん？

若葉 あの そのファイル

佑 え

若葉 いや！ ……あの なんでもないです…

佑 ……そう？

#8

(駅前)

史佳、若葉ではない人と電話している

史佳 ね、たかきゅん あのね、別にあたし、怒ってるとかじゃないんだよ

でもなんか、もっとなんとか、できないのかなって思ってる

……………うん、それもわかってるよ でもさ

…や、それはわかってるけど、それじゃ意味なくないって
なんていうか だから
え？ え、ちょっと待ってよ

電話、切れる

若葉、史佳に話しかける

若葉 史佳… 大丈夫そう？ なんか…

史佳 わかば

若葉 え、どした

史佳 意味が分からん。

若葉 なんだったの？ 今の電話… 彼氏さん？

史佳 喧嘩した

若葉 あー…

史佳 だってさ、え、あたし悪いかな？

若葉 なにがあつたの？

史佳 最近ちょっと会おうって言っても、仕事忙しいから、ってばっかです

連絡も返ってこないしさ 挙句、わかってよって は？

なにその、あたしが悪い感じ みたいな？

若葉 わあ…

史佳 おこったわけでもないからねあたし ただ、お願いしただけ

仕事仕事仕事って、そんなの本末転倒じゃんって言っただけなのに

若葉 本末転倒？

史佳 そ これからの同棲とか結婚を見据えて、いまお互い仕事頑張ってるんじゃないん

それで会えないって意味ないじゃん？って

若葉 なるほど…

史佳 なんでこれで喧嘩しないといけないかな？

若葉 …あの 会ったり、いっしょにいるのも大切かもしれないけど

相手が幸せならそれでいっかって部分も …あつたりしない？

史佳 え？

若葉 え

史佳 なんか若葉が珍しいこと言ってる

若葉 うん… うんまあ いろいろ考えてる時期なので？

史佳 やだちょっと あたしのこと置いてかないよ

若葉 いっつも彼氏いるのは史佳のほうでしょ

史佳 それはそうだけさあ… うん、でもそうね あたしだってもちろん、

相手が幸せならいいよって思うよ でもあたし恋人だよ？

あたしと会ったり、いっしょにいるのがイコール向こうの幸せじゃない？

若葉 そっか そっかー…

史佳 ってかごめん、せっかく待っててくれたのにあたしばかりしゃべっちゃった！

例のあれとなんかあった？

若葉 例のアレって ……いや、なにもないっちゃんいんだけど

史佳 ほんとお？

若葉 うん… なにかは ない

史佳 えくでも、今日、急に会おうなんて

若葉 うん、そうなんだけど ……でもいったんいいかも

史佳 ちよっと、あたしには 聞く権利あるんだからね！？

若葉 わかってるってば（笑）

史佳 ー、まあでも このタイミングであえて助かった

若葉 それならよかった ごめん、遅い時間だし いったん電車乗る？

史佳 そね まあ、かえりながらいろいろ話そ

若葉 そうだね ありがとう

#9

（健司の家）

健司 倫子 ただいま

健司 お、今日は煮込みか いいにおいがするな

健司 俺は今日な、散歩をしてきたよ 普段読まない類の本を買ったけど、

こういうのもまあ勉強になるよな

ここに置いておくから、お前もあとで目を通してみたらどうだ

昔はよく、こうしてお互いの学びについて意見を交換し合ったりしたよな

健司 ……じゃあ、先に風呂もらうよ 飯は風呂からあがったらもらうから

…また、そのへんに置いておいてくれ

健司 ……

#10

（若葉の家）

若葉 2020年、6月25日

『就活が終わった。うれしい、ほんとうにうれしい。』

あんなに窮屈だったリクルートスーツに、今日は羽根が生えたみたいだった。

パンプスのせいで靴擦れがひどいけど、もう、どこまでも走って行けそう！

わたしがやりたいもの、やりたいこと、わたしの未来、ぜんぶって感じ。

これからずっと、ずっと、あそこにおいていいなんて夢みたい。がんばろう！』

#11

(定食屋)

佑 ……

若葉 ……

佑 佐久間さん、夜シフトだったの珍しいね

若葉 もともと夜もけっこう空いてはいるんです

ただなんか、夜は早めに寝たほうがいいみたいなのがあつて…っていう

佑 へえ

若葉 …急に誘ったのに付き合ってくれてありがとうございます

佑 まあ、夕飯食べて帰るくらいでちょうどいい時間だったし

若葉 お酒とか、いらなかったですか？

佑 佐久間さん呑まないでしょ？ じゃあいいよ

若葉 ありがとうございます

佑 お礼言うことでもないって

若葉 あの…

佑 ん？

若葉 あの………ですね

佑 何？

若葉 佑さんて、読むだけじゃなかったりしますか

佑 なんの話？

若葉 いや あの 本… を読むだけじゃなかったりしますか

佑 ……え？

若葉 あの すいません

佑 え、何？

若葉 だから あの えっと …佑さんって小説書いてますか

佑 ……

若葉 すいません

佑 え すいませ …すいませんはいいけど え？

若葉 すいません、あの、こないだ、ファイル

佑 あ …ああ

若葉 たまたま 佑さんが、立田さんの忘れ物届けに行ってる間に、風で、

ファイルが落ちちゃって みちやっただんです

佑 …俺、あのときのくらいいいなかつたっけ

若葉 ほんのちよつとでした

佑 え でも 何 読んだの

若葉 …はい、あの、ほんのちよっと

佑 あくく…

佑 痛いでしょ

若葉 え？

佑 いや、痛いでしょって

若葉 なにがですか？

佑 この年で やってること

若葉 え、…佑さんがそんなこというの、

佑 俺は自分ではそう思ってるよ 思ってるけど、なんか そうじゃん

若葉 痛くないですよ

佑 佐久間さんは思っても言わないでしょ

若葉 思ってもないです！

若葉 あ、すいません

佑 いや なんかがめん

若葉 思ってるじゃないです、すいません、ただ、勝手にみたこと誤りたかったのと

あの 続きがあるなら読みたいなって思って 聞いてみただけなんです

佑 それ本気で言ってる？

若葉 言ってます 痛いとか思ってたなら この話しません

佑 それはまあ そうか

若葉 はい

佑 え …おもしろかった？

若葉 面白いかは、まだ、あのとき読んだ分じゃわかんなかったです

佑 だよ

若葉 でも もつと読みたいなどは 思いました

佑 ……まじ？

若葉 はい あの、前後の物語はわからなかったけど 地下鉄を深海魚に喩えるところが

あつたじゃないですか 今まで思ったことなかったけど、たしかに、あのく

ホームの奥から来る地下鉄ってそれも見えるなあ、とか思って …みたいな

佑 いや まじか えー まじか

若葉 佑さん？

佑 いや まじか、と違って

若葉 …

佑 なんか うわくだわ

若葉 え、なんですかそれ

佑 いやなんか 誰かにみせるとかここ最近やってなかったから

うん いや ふつうに ありがとう

若葉 そんな わたし、勝手にみちやって

佑 それはさあ、なんか、いらんこと言われるから 嫌だっただけじゃん

ほんとうるさいんだよ、家族とか 昔の同級生とかもね

若葉 そうなんですわ

佑 うん うわあ 佐久間さんには申し訳ないけど 居酒屋にすればよかった

若葉 なんですか(笑)

佑 知らん 酒必要だったなって

若葉 ええ？

佑 え え…読む？ ほかのとか、続きとか

若葉 いんですか？

佑 うん

若葉 ありがとうございます！ わー、嬉しい…です

佑 そんな はい うん

若葉 あ、あと、あのときお店でやったのって もしかして、文字校正だったりします？

佑 え、よくわかったね 朝シフト暇だから、うん、作業してた

若葉 あの わたし、たぶんけっこう 手伝えますよ、そういうのも

佑 手伝う？

若葉 あの わたし、ここに来る前、雑誌の編集 やってたんです

佑 え、あ、そうなの

若葉 はい きつくてやめちゃったんですけど …でも、そういう作業、

たぶん普通の人よりは得意です

佑 そうなんだ …なんかちよっと 一応だけ賞に出すとかもやってたりは してて

若葉 賞！

佑 うん そうですね、直近だと、もう、来月が応募だから みたいな

若葉 すぐじゃないですか それ用の校正をしてたってことですか？

佑 まあ、そうだね

若葉 手伝います！ ただで読ませてもらうの申し訳ないし！

佑 ほんとに言ってる？

若葉 言ってますよ

佑 なんか さすがに 都合よすぎるような気がするけど

若葉 いいんですよ 使ってください わたし、応援してます

佑 …まじか〜 うわ はい ありがとうございます。

若葉 …

佑 佐久間さん？

若葉 わたし 迷走してたんです ここ最近

佑 え？ ああ なんか言ってたね

若葉 でも 迷走、おわりました

佑 そう なんだ？

若葉 はい …たのしみにしてます 佑さんの本

#12

(若葉の家)

若葉 2021年、6月25日

『就職して、もう2カ月。ぜんぜん、ほんとうに、苦しいことなんてない。

毎朝わくわくする、いつもうれしい、毎晩ドキドキする。

まわりもみんなやさしくしてくれて、出来なくても怒られたりしない。

大変なことも多いけど、たのしい。』

若葉、しばらくスケジュール帳をばらばらめくる

若葉 2022年、6月25日

『毎日、くるしくなんてない 今日があって明日もくることはうれしいよ

それなのに最近、カレンダーの日付ばかり目に入る

日付が進むのがこわい

受け取った言葉も写真もデザインもぜんぶ、なにがなにやらわからなくなる

メールが来て、電話をして、つながったりつながらなかったりして、

だれかが怒っても怒らなくても、謝らないといけなくて

朝が来て夜になって朝が来て夜になってもそれをずっと繰り返して

わたしがたぶん、毎日もっと、上手にできればいいんだろうけど』

#13

(オフィス)

史佳 立田さん

健司 くん

史佳 中村さんが来社してるから、A会議室に寄って金澤さんに声かけてから

対応してくれて太田さんが言っていました

健司 …

史佳 …中村さんが来社してるからA会議室に、

健司 いやそれはわかったが なんの用件なんだ
史佳 聞いてません
健司 ……
史佳 ……
健司 水無瀬さん、それだと伝言を受け取る側が困るだろう
史佳 すいません でも、立田さんへの用事、みんな私に言おうとするですよ
いちいち内容まで聞いてたら地味に大変なんで
健司 なんで水無瀬さんに言うんだ？
史佳 立田さんにずけずけ言えるからじゃないですかね
健司 ずけずけ？
史佳 ほら 私、最初の上司が立田さんだったじゃないですか
あんま遠慮とかないんですよ、立田さんに
健司 きみのそういう態度は いかげなものかと私は思っているが
史佳 だからなんか、その感じ
健司 ん？
史佳 その「いかげなものか」って顔されるし、あげく「いかげなものか」って話をされるから、みんな立田さんに話しかけにくるのヤなんですよ 多分
健司 いや… というと
史佳 え 自覚ないんですか？
健司 上司として及ばない部分があったということだ
史佳 え ちょっとやめてくださいよ そのスタンスなんですか、
それだとあたし、立田さんを傷つけた感じになるじゃないですか
健司 いや、むしろ不足を指摘してくれたことはありがたいよ
史佳 ええ… いや すいません、なんか…
健司 もっといい上司になれるよう努めよう 明日はそれ関連の本を買ってみるかな
史佳 ほんと 毎朝本買ってきますよね
健司 ん まあ、大切なことだろう
史佳 言いたいことはわかりますけど 私、逆にこの仕事はじめてから朝から本屋…
とかは無理になっちゃいましたけどね
健司 それはよくないな 学びは怠るべきじゃない
史佳 ……はい
健司 そうだ、これも口うるさいかもしれないがもう一つ 中村さんはさんづけではなく、先生、と呼びなさい そういうのを気にされる方だから
史佳 は……い 気を付けますっ

#14

(本屋)

若葉 佑さん

佑 はい

若葉 あの、読んできましたよ

佑 嘘でしょ あ、量もう読んだの？

若葉 はい だって、楽しかったですもん

佑 あゝ はい

若葉 ほんとですよ

佑 疑ってないよ

若葉 それならよかったです

佑 …え ほんとに校正も入れてくれてるじゃん

若葉 はい 迷惑じゃなかったらいいですけど

佑 いやこれは …普通にたすかる

若葉 ほんとですか！

佑 え うん、ありがとう

若葉 よかったです あ、佑さん

佑 ん？

若葉 わたし、店みてますから 事務所で作業してもいいですよ

佑 え いや、さすがに悪いわ このあと混むじゃん

若葉 でも、わたしも仕事慣れてきましたから 大丈夫ですよ

佑 慣れるとかじゃないじゃん、混んだら物理的に無理だよ

若葉 うーん そうですかねえ

佑 うん いやなんか 佐久間さんやりすぎ

若葉 やりすぎ？

佑 うん こんな 読んできてもらって、感想もらってる時点で なんだから

若葉 そうですか？

佑 うん はい 十分です

若葉 …なんか、わたし、止まるのが下手らしいです

佑 え？

若葉 わたし ほどよく頑張る、みたいなのが苦手で やりすぎちゃうんです、何かと

佑 あー… まあでも、そんな感じはするわ

若葉 これ！ っていうなにかがあると、なんかもうぜんぶ、それになっちゃうんです

佑 それはまあ、俺みたいにいるいる適当にやるよりいいんじゃないの

…なんかこんな話前もしたな

若葉 佑さんは適当にやってるわけじゃないじゃないですか

ただ、佑さんにとって優先してることがあるから、反対もあるだけです

佑 あー まあ それは、そうかもね

若葉 あの、わたし、前は 佑さんの いろいろ上手くやってるところに
憧れてると思ってたんですけど たぶんそうじゃなくって

…佑さんのそういう、他がどうでもよくなっちゃうくらいに大事なものが、
自分のなかにちゃんとするのに 憧れたんだと思います

佑 でも それを言ったら佐久間さんと俺、あんま変わんくない？

若葉 え？

佑 佐久間さんの言い方でいくならさ 俺は いわゆるその、小説書くことに

「これ！」ってなって、それだけになってる状態なんじゃないの

若葉 …たしかに？ いやでも、わたしは わたしとはやっぱりたぶん、違います

佑 そうかな まあ、佐久間さんのがいろいろちゃんとしてるしね

俺はただの社会不適合なので

若葉 そういうことでもないですよ いただいた小説も読んで、あく佑さんには

こんなふうに見える世界が見えてるんだなって思っ 素敵だなと思いました

佑 うわー はい ありがとうございます。

若葉 だからいろいろ、手伝いたいなって思ってるんですけど

…でもあの、わたしの感想とか 校正とか 多少役に立ってます？

佑 うん ありがたいよって

若葉 なんか 前職、雑誌の編集っていったんですけど、ほんと、

小説とかの編集ではないので 物語を読むのは趣味程度でして…

佑 別にそれでいいけど

若葉 あの 佑さんは、プロにみてもらったことってありますか 原稿

…それなりに賞に出したりなんたりはしてるけど

佑 ちゃんとした反応らしい反応があったことはないってかんじじゃない？

若葉 そうですか …いつかそんな機会があれば いいですね？

佑 うん まあそりゃね

若葉 ……そうですよね

佑 まあでも、そんな簡単なもんでもないよ

若葉 そう… そう ですよ

佑 うん

#15

史佳 はいはい、もしもし？

若葉 史佳

史佳 わかば ちょうどよかった、そろそろ連絡しようと思ってた

若葉 史佳、あのね、わたし佑さんのこと好き
史佳 !? え、え、なに!?

若葉 あの… そういう結論になったの

史佳 いやちよつと待って え、なに?

若葉 なに? っていうのは今度話すから… ひとつお願いがあるの

史佳 おねがい?

若葉 うん あの、史佳になら頼めるかもと思って

#16

(若葉の家)

若葉 2022年、6月30日

『毎日丁寧に丁寧に丁寧に見てたはずの世界に、もやがかかったみたい。

テキストにも、写真にも、なにが込められているのかわからなくなっちゃった。

最近、もうずっと 目の前の誤植しか見つけてない』

若葉 2022年、7月1日

『きのうのことは、ぜんぜんよく覚えてない。

ただ地下鉄のヘッドライトが、昔実家の近くにいたネコの目にみえて、

ああ、捕まえなきゃ行っちゃうかもって思ったところだ』

若葉 …もうずっと、目の前の誤植を見つけてるだけ。

日記をみても、いつからかはわかんないけど

最後はほんとうにこんなふうだったと思う

それだから それだったから たぶん、わたしはいまこうなったんだろうなあ

#17

(居酒屋)

若葉 あ 史佳

史佳 やっほ

佑 …どうも

若葉 あの、史佳、この人が、

史佳 あ、佑さんですね 若葉から聞いてます

佑 はあ

若葉 佑さん、史佳です わたしの大学からの友人です

史佳 よろしくおねがいします

佑 お願ひします

史佳 なんかほんと、若葉がお世話になってるみたいで…

佑 いや 俺はなんもやってないですけどね

史佳 いえいえいえ、そんなことはないですよ

若葉 あたし個人的に、この子はずっと心配だったんで、いま楽しそうで安心してます

佑 わたし、史佳にすすめられて、いまのお店も決めてへえ

史佳 本屋さんって決めたのは若葉なんですよ

でも、なんかあったときを考えて できればあたしと同じ職場の駅にして…って

若葉 同じ駅で求人出たの、けっこう奇跡だけどね

史佳 まあ、そういう運命だったのよ

若葉 なにそれ

佑 ……

若葉 あ、佑さんすみません 興味ないですよね

佑 いや、いいけど 今日なんなのかなって思っ

若葉 …もう来る？ 言ってた人

史佳 うん すぐ

若葉 じゃあ あの… 佑さん

佑 はい

若葉 実は このあと、プロの編集さんがくるんです

佑 …え？

史佳 あたし実は出版社勤務なんですよ で、若葉に佑さんのこと聞いて

佑 え、なに、どういうこと

若葉 こないだ言っただじやないですか わたしだとちよつと 頼りないかなって

佑 言っただけど そこまで本気だと思わなかった

史佳 まあ この子、なんかすごいね、佑さんのこと応援してますから

こういうのほんとはだめなんですけどね、わたしもがんばっちゃって？ みたいな

若葉 りか

佑 え そんなで 史佳…さんではないの、編集

史佳 あたし小説のほうは持ったことないんで

佑 ああ…

若葉 応募までもうすぐ二週間だし、こういう機会があってもいいかなって…

あ、もちろんさすがに、佑さんが応募する賞の出版社ではないですが

佑 いや、それでも うん うん、悪いことはない、全然…

若葉 それならよかったです

史佳 …あ、ちょうどついたりみたい こっちです…

健司≡

健司 水無瀬さん、遅くなったね

若葉 え

健司 え？

史佳 あ、この人です。あたしの元上司で、小説とかもみてます…ってあれ？

佑 ……

若葉 立田…さん

史佳 え？ 知り合いなの？

健司 駅前の弦屋の… 佐久間さんと丸山くん

史佳 えっ！？

若葉 立田さん、毎朝本買いにきてくださるから…

史佳 あ あ~~~~~！ あれ、若葉んとこで買ってたんですね！？

健司 いや、すごい偶然だな どういう集まりかと思ったら

佑 ……

健司 丸山くん たしかにここはお店ではないから、いらっしやいませは求めない

ただ、人に挨拶はするべきではないかな

佑 どうも

史佳 え、あゝ じゃあなんか 紹介とかいららないか

この人、うちでも屈指の意識高い系だから、まかせてくださいよ

健司 意識が高いことは悪いことではないだろう

史佳 悪いことなんて言っていないでしょ

若葉 (小声) え… 佑さん どうします…？

佑 ……

若葉 すいません、まさかその 立田さんだとは…

佑 ……

健司 まったく、世の中には不思議な縁があるな

若葉 ほんと… ……

佑 ……

健司 するとなんだ、もしかして原稿をみてほしいうら若き作家というのは丸山くんか？

佑 ……まあ そうです

若葉 佑さん

佑 いいよ せっかく佐久間さんが設定してくれたわけだし

…立田さんも そういうことなら みてもらい たい です

史佳 歯切れ悪くないですか？

佑 ……いや お願いします

健司 興味はあるから、ぜひみさせてもらおうよ。ものはデータかな？

若葉 あ、いや、一応、紙でも持ってきて。こういうのって紙のイメージあって、ね？

佑 いや、俺は佐久間さんに紙で原稿持ってくるように言われただけだったけど…

健司 紙であるなら、いま少しみてもいいかな

佑 え？

健司 もちろん、細かいところはあとでみるがね。いま、簡単に雰囲気だけでも

佑 ……………どうぞ

沈黙 健司、読みはじめる

佑 ……

若葉 ……

史佳 ……なん、か、話しません？

若葉 え？

史佳 や、だって、なんか立田さん読んでるけど、でもこれジツと待つほうがなんか、

あれじゃないですか

佑 それはまあ、たしかに

史佳 そう！、っていうか！、あたし若葉に話したいことあったの！

若葉 え、なに？

史佳 あ、ちょっと若葉にいいですか？

佑 いいけど

史佳 ありがとうございます、で、若葉、あたし別れそう！

若葉 わか…、あ、彼氏？

史佳 そう！

若葉 こないだの件で？

史佳 まあ、それだけじゃないけど、同じような喧嘩、何回かやっちゃって

もうなんか、しんどくなってきた

あたしの生活の9割なのに、この人はあたしになにも返してくれなくない？

みたいな

若葉 そっかあ

史佳 そっかあじゃないよ、もっと慰めてよ

若葉 (笑) それこそ、ふたりでごはんいったときとかにしようよ

それに、まだ別れてないんでしょ？

史佳 まあね

若葉 それならほら、ね？

史佳 うん ……佑さんって恋愛興味ありますか？

若葉 は!?

佑 え 俺ですか

史佳 はい、まー せっかくなんで

佑 恋愛 興味あるかって言われたらまあ… ないんじゃないですか

史佳 え! ないんですか!

佑 まあ

史佳 えつ、恋人は、 恋人は 恋人は、いまいない?

佑 いたらさすがに、興味ないとは言わないですよ

史佳 えつ、でも ほしいとかも!? ない!?

佑 はい

史佳 ……!

若葉 まあでも、佑さんっぽいぞ そういうの

史佳 え?

若葉 え?

佑 俺っぽいかわかんないけど 正直、いまはめんどくさいよ

史佳 もともとそんなに積極的なほうでもないし

史佳 めんどくさいってあれですか、その 好きになり好きになれど的なのが?

佑 それもだけど ……この年になると、恋愛ってイコール結婚だし

まわりがどうの、家族がどうの、って話まで踏まえるとただただ面倒

史佳 あゝ… えゝ… でもつ、楽しいですけどね、恋愛!

佑 そりゃ楽しい人は楽しいんじゃないですか

史佳 うゝ、まあ、そうなんですけどお

若葉 史佳は恋愛脳だから…

史佳 若葉がいまその感じなのはちがくない!?

若葉 え やめてよ

史佳 えゝでも 佑さん そうなんだゝ

佑 俺はまあ いま そんなことしてる暇もないので

史佳 えー… えー…?

若葉 なに

史佳 いや えゝ…?

健司 丸山くん

佑 あ はい

健司 丸山くんは年齢はいくつだったかな

佑 は?

健司 年齢だよ

佑 29です

健司 仕事は、弦屋のスタッフだけ？

佑 ……そうですね

健司 さっきの話はほんとうかな

佑 さっきの話？

健司 恋愛の 恋愛をするのはめんどくさいという

佑 まあ、そうですね

健司 なるほどなあ

佑 え、なんですか ……なにか関係ありますか

健司 いや、丸山くん

佑 はい

健司 芸術のためにすべてをかなぐり捨てるべきだ、なんて時代は終わったよ

佑 ……はい？

健司 私は君のことを無気力な若者だと思っていたから、こうして何かに打ち込んでいる現状があったことは嬉しく思うよ

佑 だけど、以前からきみの勤務態度には口を挟ませてもらっていたように、君の生活態度というか、人に対するそれにはいささか疑問があるね

佑 それが なんですか なにか関係ありますか

健司 あるだろう 君はきつと、執筆以外の生活をおろそかにしている

佑 ……

健司 きちんと生活をして、人並みの幸せを得て、それでこそ、人に伝わるものができるんじゃないか

佑 俺は 俺は、俺だって きちんと生活しています

健司 そうかな さっきの話でいくと、そうは感じられなかったが

若葉 ……あの、立田さんにはもしかしたら見えにくかったかもですが、佑さんはいつもやらないといけないことはきちんとやってくれて、責任感だってちゃんとある方で、

佑 ちがう ……ごめん、ちがうでしょ そういう話でもない…でしょ

若葉 え

佑 だって あんたいま、それ読みました？

健司 読んだよ

佑 その量 ここで読めるわけないでしょ

健司 もちろん、ぜんぶではないけど

佑 ……ぜんぶではない けど 読んで出るのがそれか

健司 大切なことだからな

佑 …俺は そういう そういう、話をしてるんじゃないんですけど
健司 そういう話もどうい話もないんだ
佑 俺の 俺の 生活とか 人生にまで
そんな、評価ってツラして干渉してこないでください
健司 干渉？
佑 そんなの、関係 ないじゃないですか
健司 わからないな だから…
佑 じゃあ「きちんとした生活」で「人並みの幸せ」の定義ってなんですか
例えばあんたみたいにきちんと結婚して 正社員で働いてって それですか？
健司 ……
佑 どこにも定義なんてないはずなのに、その言い方はないだろうってことだよ
若葉 …佑さん、あの、佑さんは あの
佑 佐久間さんもほんとに
若葉 え？
佑 俺、お願いなんかしたっけ？ プロに見てほしいとか、そもそも、
他人にこういう話してほしいなんて言ったっけ
若葉 あ ごめんなさい、わたし、勝手なことをしてしまっ…
佑 ほんとだよ
史佳 ちよつと その言い方はないじゃないですか
若葉 史佳
史佳 若葉は、佑さんに喜んでもらおうと思っただけじゃないですか
佑 そもそも、俺が喜ぶことを考えて、とも言ってないんだけど
史佳 そういうものなんですよ
佑 そういうもの？
史佳 だって 若葉は佑さんのことが好きなんですもん
若葉 史佳！！
佑 …は？
史佳 だってそうじゃん この人、若葉になにも返してくれない気だよ
そんなん そんなん、だめだもん
若葉 なんて ちがうよ、そんなの
佑 あ…
若葉 佑さん
佑 そういなのなんだ
若葉 佑さん、
佑 いや いや、ほんといいから！
若葉 …

佑　ほんと　そういうのなら、いいから

佑　：帰ります　支払い、自分の分、ここに置いていくんで

佑、自分の小説を回収してOut

若葉　：史佳　なんであんなこというの

史佳　ごめん

若葉　ごめんって

史佳　だって　ダメだと思った、あの人は

若葉　だめって　なにが？

史佳　だって　だめだよ、あーゆー人に恋してたら　幸せにならないよ

それに言ったじゃん、恋って大きいんだよって　その通りになってるじゃん、

若葉　ちがうよ　ちがうもん、そういうんじゃないよ

史佳　じゃあなに

若葉　わかんないけど　わかんないけど、史佳といっしょじゃないんだよ

史佳　え？

若葉　史佳は　史佳は恋した相手になにかしてほしいんでしょう　でも、わたしは違った

史佳　：そんなん、幸せになれないじゃん、だって

若葉　幸せになってなに？　わたし、自分なりに幸せになれることを、

史佳　一回それで壊れてる若葉のこと信用できない

若葉　………え？

史佳　ごめん　こんなこと言いたくないよ、言いたくなかったけど

若葉、前の仕事のときなんて言ってた？　楽しいよ、幸せだよ、わたしがもっと

頑張ればいいだけだよって　それで　それでぶっこわれたんじゃない

わかってる？　あたし　あんとき　どんな気持ちだったとおもうの

若葉　……

史佳　そりゃ　あたしと若葉はちがうよ　でもそれならちゃんと教えてよ

あんたは何がしたいの

若葉　佑さんの　ためになることがしたかった

史佳　それは、なんで

若葉　：佑さんの　他がどうでもよくなっちゃうくらいに大事なものがあるの

いいなって思ったから

なんで　こういうのが恋で　恋ってしていいんじゃないの

史佳　若葉

若葉　わたし、ちゃんと　史佳の宿題やったよ　これが恋って　結論出したよ

史佳 ……ごめん

若葉 ごめんわたしも ……わたしも、かえる

若葉 Out

#18

(駅のホーム)

若葉、ホームの遠くに、佑がいるのを見つける

佑、電車が来る方向に顔をあげる

若葉、はっとして佑に駆け寄る

若葉 佑さん!

佑 え ……佐久間さん

若葉 だめです

佑 は??

若葉 しんじやだめです

佑 死なないけど

若葉 ……そうですか

佑 え、なに、ついてきてたの

若葉 ちがいます ちがいます、ほんとうに、わたしもさつき店出て、

帰ろうと思つて、そしたら たまたま、佑さんがいたという

佑 そう

若葉 ……すみません あの

佑 そんなにみじめだった? 俺

若葉 え

佑 あのおっさんにいろいろ言われて 思わず死んじやいそうなくらいみじめだった?

若葉 そういうことではないです ほんとに

佑 別にいいよ、気遣わなくて

若葉 本当に違くて あの わたしが わたしが、やっ ちゃった ことがあったので

佑 ……え?

若葉 すいません、電車も いっちゃいましたね

佑 ……

若葉 た 佑さんの小説の、地下鉄、深海魚のところ、やっぱりわたし好きです

地下鉄ってほんとね 食べられちゃいそうになりますもん

あの場面は主人公が友達と別れる場面だったから、そういうのとはちよつと違うのかもしれないんですけど

佑

若葉 あ の ほんとにみじめに思つてとかじゃないんです

ただ、わたしのときは 自分が立つてた、基盤みたいなものが

いつのまにかなくなっちゃつて、よくわかんなくなつて そういうときに

ほんと、ふらつと みたいな感じで 電車で飛び込もうとしたらしくて

さつき、なんとなくそんな風に見えて、みたいな

上手く説明できないんですけど …でもあの すみません

佑 …いや

佑 あのさあ、佐久間さんつてさあ 俺のこと、恋愛的に好きだったの

若葉 …はい

佑 悪趣味だね

若葉 すみません

佑 謝られることでもないけど なんか へえ そうだったんだなあつて感じだな

若葉 …

佑 …俺には俺の生活があつて、誰かには誰かの生活があつて、幸せもそこにあつて、それでいいのに なんで干渉しようとしてくるの？

若葉 え

佑 例えば同じ季節の同じ時間、同じ場所でも、だれかの景色は俺の景色じゃなくてみえるものも、感じるものも違うのに それはあたり前なのにさ。

誰かの生活つてなつたとたん、みんなして干渉しようとしてきて、型に嵌めようとしてくるのが、俺は本当にきらいなんだよ

若葉 …

佑 だから だから、俺のみてる景色がわからなくならないように小説にしてて

誰かに届けることができたらいいつて、思つてただけ

若葉 わ たしは、わたしには届いてました、だから佑さんがうまくいったらいいつて

佑さんに干渉しようとは してません

佑 佐久間さんは、俺の型に嵌ろうとしてたじゃん

若葉 …え？

佑 誰かを型に嵌めようとするのも、誰かの型に嵌ろうとするのも

俺はどつちも 干渉だと思つよ

若葉 …迷惑でしたか、わたしがやったこと、いろいろ

佑 迷惑とかではないけど、あー、そういうことかっっておもっただけ

佐久間さんにとって俺の小説は、俺の型に嵌るためのツールでしかなかったでしょ

若葉 …

佑 これ、あげるよ（佑の小説）

若葉 え

佑 なんかもういいかなくて

若葉 え なんですか

佑 だから、もういいかなくて思ったから

若葉 そんな、

佑 いろいろ佐久間さんには行っちゃったけど、結局、俺がめっちゃくちゃだったと思う

俺の景色が捨てられないように なくならないように小説にしてるのに

賞に出すだとか、みてほしいだとか、 矛盾してんだよ

だからそれはもう いらない

若葉 でも

佑 俺 これで仕事行かなくなるとか、そういうのはないから安心してね

前言ったけど 最低限の責任感はあるから

若葉 …

佑 あー、こういうのも中途半端なんだろうな きちんと人並みではないくせに、

完全に捨てられない

電車くるよりのアナウンスみたいな

佑 あー… じゃあ俺、次乗るから これ

佑、小説を若葉に押し付ける

若葉 これ、こんな 受け取れませんか

佑 いらなければ捨てればいいじゃん じゃ

#19

（健司の家）

健司 倫子 ただいま

健司 今日は部下に誘われてちよつとした飲み会に行ったんだが

いや 俺がちよつと、なにか、うまいことできなかったみたいで

あまりよくない空気にしてしまったよ

健司 …きちんと人並みにとはなにかと聞かれてな そりや、答えはいろいろあるけど

とつきにこれだ！という正解が出せなくて 俺もまだまだ勉強不足だよな

…俺のように、結婚して、おじさんになるまで正社員してたら正解かとも、聞かれたが なあ 思わず固まってしまったな

健司 もう半年も嫁さんに無視なんてされてたら、正解とは言えないよなあ はは

ああ、すまん 嫌味を言いたいわけじゃないんだよ

ただ、無視をされているとしても、こうして意見を伝えることは大切だと、こないだ夫婦関係を修繕する100の方法という本に書いてあったから

少し前に買ったものにはそっとしておくようにとあったが、あれは不正解だったろ、だから今度はこつちをためしてみているんだが… はは どうだろうな

健司 部下への接し方しかり、悩める若人への助言しかり、倫子に対してしかり…
もっと勉強をしないといけないな

(電話)

史佳 あ、たかきゅん？ うん、ごめんね、急に

……………や あの、うん ここ最近のことを ちょっと 話そうかなみたいな

うん ほんと、あたし、怒ってるとかじゃないんだよ なかったんだよ

ただなんか あたしの言ってることって、あたしの話でしかないじゃんねえ

だからごめん たかきゅんと もう少し話したいなって思ったの

#19

(若葉の家)

若葉 2022年、7月7日

『仕事をやめた。』

パソコンと社員証を返して、皆さんにお菓子を配り終えて、定時でオフィスから出たときにみた空があんまり明るくてびっくりした。

これからどうしようか、なんにもわかんない。』

若葉、自分の日記をばらばらめくる

若葉 『帰り道のパン屋さんの、お高めのキッシュが半額で嬉しかった』

『こないだまで空地だったところに、駐車場ができてた。気づかなかったな』

『わたしは今日コートを出してきたのに、先輩はまだ七分丈だった。オフィスは確かに暑いかも』

『雨のにおいがわかるかどうかの話をした、わからない派もいたし、わかるけどきらい派もいて、わたしは大好きだからびっくりする』

若葉

わたしは わたし以外のだけかによって、切り取られた景色が好き

同じ季節の同じ時間、同じ場所でも、だれかの景色はわたしの景色ではないこと

それがなんだか、たまらなく好きだった

…でもそれは わたしだってその瞬間、どこかに立って、

わたしだってわたしの景色をみていたからなんだと思う

それならわたしは いま、何をみてるんだろう？

若葉、佑の小説を手取る

#20

(駅前)

史佳 立田さん

健司 うん

史佳 けっこう勇氣要りますね

健司 うん

史佳 …やっぱ、お店行ったほうがいいと思います？

健司 ううん…

史佳 でも、お店で話しかけて、こう、やるべき話じゃないと思うんですよ

健司 ううん…

史佳 かといって、ここにいたって会えるとも限らないですよ

健司 ううん…

史佳 聞いてます？

健司 聞いているよ

史佳 なんでそんな、から返事なんですか？

健司 いや、申し訳ない

史佳 別に、立田さんは先にオフィス行っててもいいんですからね？

健司 いや。それも… どうだろうな

史佳 ……なんか今日は、ずいぶん煮え切らないですね？

若葉、やってくる

若葉 …え

史佳 わ 若葉……！

若葉 え、何!?
史佳 ごめん 勢いまちがえた
若葉 え… あの え、なに?
史佳 こんな 待ち伏せのようなことをしてすみません
若葉 いや おはよう… 立田さんも おはようございます?
立田 うん おはよう

沈黙

若葉 えっ…と
若葉 ……
史佳 ……
史佳 気まずいね
若葉 え?
史佳 最近、顔合わせるたびばっつとしゃべってたから。 沈黙、気まずいね
若葉 それは そうかも
史佳 …えっと、説明します
若葉 はい
史佳 あたしは 若葉と話したいなと思って、でもこういうのは顔を見てだなんて思って、かといって「会って話せる?」とか連絡するのも重々しくない?と思い、その… 出勤前に 駅で会える可能性にかけてみました
若葉 なるほど
史佳 そしたら「自分の習慣的に弦屋に寄らないのは落ち着かないが、さすがに昨日の今日でしれつと顔を出すのもどうなのか」と悩める立田さんと偶然合流
いまに至ります
若葉 出勤前っていったって、けっこう早めにきたんじゃない?
史佳 それはまあ 大体朝としか聞いてないし
若葉 そっか
史佳 ……
若葉 ……
史佳 あの… あの… 友達と喧嘩するのが久しぶりすぎて どうしたものか
若葉 喧嘩だったのかな
史佳 わかんないけど 少なくともあたしはけっこう あっ、やっちゃったって思った
若葉 それは、わたしも思った
史佳 最初に言うべきだったけど …昨日はごめんね
若葉 ううん こっちこそ 史佳の気持ち、全然考えてなくて

史佳 いいの、でもあの、若葉がね 仕事やめてすぐに会ったとき、

あんた自分からなんにも話してくれなかったの

あたしの話は聞いてくれたけど、それだけって感じで それでそのとき、あたし、若葉は生活のなかですごく大きなものをなくしちゃったんだって思ったの
：それなら、若葉がせめて不幸にはならないように、
あたしが近くにいてあげたらいいのかなって思っちゃったんだよね

若葉 …うん

史佳 でも、結局、あたしが言うことってあたしの話でしかなくてさ

若葉にとつて何が幸せなのかって、若葉のなかにしかないんだよね

だから 余計なこと言っごめんね

若葉 いいんだよ、それは 史佳は間違っでなかったと思うし、ありがたかった
わたし実際、自分でわけわかんなくなつてたもん

史佳 そっか …そっか

若葉 史佳ってさ 生活の9割彼氏っていうわりに、やさしいよね

史佳 え？ …そんなの、当り前じゃない？ それとこれとは 別というか

若葉 うん うーん、別ではないと思う そういうところがあるからきつと、

史佳とわたしの幸せはいいしよではないんだけど

でも、史佳がいつも支えてくれるの すごくわたしは嬉しいよ

史佳 …そうかなあ でも あたしがいることが若葉にとつていいことなら、
あたしも嬉しい

健司 …きみたちはすごいな

史佳 立田さん？

健司 俺は きみたちのようには出来ないなあと思つて

史佳 どういうことですか

健司 …昨日、せつかくの機会を、おそらく俺が台無しにしてしまったから

「若者に誠意を伝える謝罪」という本を買つて帰つたんだ

史佳 …そんなことしてたんですか???

健司 ああ ただ …ただ、家でその 本を読んでいたところ

急に妻に無言で本を取り上げられて「あなたは、あなたの、何が悪かったか、
あなたが、なにを言いたいのか、わかっているの」と言われて…
そこまで考えられていなかったなと思つた

若葉 素敵な奥様ですな

健司 うん 妻はいつも明瞭でね、同僚時代もそうだった

それに比べると俺は、いつも自分だけだと間違えてしまう

編集者なんて、ふつうよりも正しい物差しをもっていないといけない立場なのにな

若葉 …立田さん

史佳 …なんか、いままでずけずけ言つてすいませんでした

健司 いや、前にも言ったが、それはむしろありがたいんだ

若葉 ……立田さんでもそんなふうに、正解に悩んだりするんですね

健司 私は、いつも、そうだよ

若葉 たぶん、佑さんも、そういう本に載ってる正解じゃない言葉のほうが、お話してくれると思います

健司 うん、そうなんだろうなというのはなんとなくわかったよ

若葉 いまの状態だと、ますます彼を不愉快にさせるんじゃないかな

若葉 それは、まあ、そうかもしれない

健司 佐久間さん、私はしばらく弦屋にはいかないことにするよ

史佳 毎朝の習慣をやぶるのは、なんだか落ち着かない気がするが

史佳 いんじゃないですか、立田さんはもとがまじめすぎますよ

健司 そうなのかな、自分ではわからないな

若葉 ……

史佳 若葉？

若葉 いや、あの、ありがとうございます ……なんか、ふたりと話せてよかった

史佳 じゃあ、あの、あたしたちは仲直り？

若葉 もちろん、なんか、なんか、わたしたち今までも結局、こんな感じに、ぜんぜんちがうもの同士だったよ、言葉にしなかっただけで

史佳 そっか、それはそーね

若葉 うん ……じゃあ、わたし、そろそろ行かないと

史佳 あ、わかった、ごめんね引き留めて

若葉 ……あのね、今日、同じシフトの時間に佑さんもいるの

史佳 え、まじ

若葉 わたしより一時間早い時間に入ってるはずで ……これから会います

史佳 それは…、気まずいね

若葉 でも、なんか、たぶん、大丈夫

史佳 そう？

若葉 うん、あのねえ、史佳の宿題、今度こそちゃんと出来たと思うよ

史佳 宿題って、もう、そんなふうに言わなくていいよ

若葉 うん、まあ、そっか

史佳 でも、単純に今度ゆっくり聞きたい（笑）

若葉 ……わかった（笑）

史佳 さてじゃあ、あたしたちも出勤しますか、立田さん

健司 うん、そうだな

史佳 今日も一日 がんばっていきましょー！

史佳、健司Out

#21

若葉、入る

若葉 …おはようございます

佑 はい おはよう 見ての通り きちんと出勤しています

若葉 はい えっと そうですね

若葉 あの、佑さん

佑 はい

若葉 あの、昨日、すみませんでした いろんなこと

佑 謝ることもないよ

若葉 そうです ね、そうですね

佑 うん

若葉 …じゃあ、あの、なんですけど

佑 うん

若葉 わたし、佑さんのことがすきです

佑 ……

若葉 すいません なんか

佑 いや その話するんだーっていうか 昨日終わったかと思ってた

若葉 あの 昨日は史佳が、言っちゃって それに佑さんがこたえて

…わたしからは何も言っていないな、と

佑 佐久間さんはそれを言っつて、俺にどうしてほしいの

若葉 どうしてほしいとか そういうんじゃないんです

…あの 気持ち悪かったら 捨てていいんですけど

若葉、佑に本を手渡す

佑 え？ これ

若葉 ハンドメイド？ ハンドメイドなので めちゃくちゃ汚いんですが

製本を… してきました

佑 製本って これ、中身俺の？

若葉 はい 本当にぼろぼろで申し訳ないんですが…

いらなかったら捨ててもいいって言ってたから、別に、こうしてもいいかなって

佑 まあ… そりゃ あげたもんだからね

若葉 今回はあの、喜んでほしいとかじゃないんです

これは 佑さんのものだーっていうふうに したかったんです

佑 わかんないけど

若葉 …あの、わたし 誰かの目線でみる景色がすきなんです

佑 え？

若葉 佑さん、言っただでしよ 同じ季節の同じ時間、同じ場所でも、

だれかの景色は自分の景色じゃなくて 見えるものも、感じるものも違うって

わたしはそれが好きなんです

雑誌編集の仕事をしたのも、だれかの景色を形にして届けたかったからなんです

佑 そうなんだ

若葉 実際それができました だいすきな仕事でした

…でもその仕事が 少しずつどうしようも苦しくなってる、

ついにわたしの生活からなくなっちゃったとき

わたしの世界の見方がわかんなくなっちゃったんです

佑 ……

若葉 佑さんは、わたしが佑さんの型に嵌ろうとしてたって言ったでしよ

その通りでした

佑さんの見てる世界はきつと、わたしと違うんだらうなってるって思ってる

実際にそれが表現された小説を読んで わたし

同じ世界をみようとしちゃったんです

自分の世界の見方がわからないから、代わりにあなたの世界が見たくなった

佑 …なんかすごい いろいろやってくれたもんね

若葉 でも わたしは わたしはあの 電車で飛び込みかけたとき、

地下鉄はネコに見えたんです

佑 え？

若葉 佑さんは深海魚って地下鉄を表現して、わたしもそれが好きで、でも

でもわたし、わたしの景色と、だれかの景色がちがうことがすきだったんです

わたしの世界が見えないまま、誰かの世界をみたかったわけじゃなかったって、

やっと思い出しました

だから …だからこれは 佑さんのみてる世界は、佑さんのものなんだって

形にしたらちゃんと分かるかなって思ってる 作ってきました

佑 ……すごいね

若葉　　すごくないです　ほんと、工作みたいなんですから

佑　　いや、そこじゃなくて　なんか　…俺もすいませんでした

若葉　　え？

佑　　あんまりにもいろいろやってくれるなって思ってたところで、

その…　そういう意味で「好き」とかって言われたからさ

佐久間さんは俺の小説に興味があるような振りしてただけかなとか

そんなふうなことを思ってたんだけども　そうじゃなさそうだね

若葉　　はい　それはちがいます、でも、誤解されても仕方なかったかなって

佑　　や、まあ　そっか　…そういう意味合いのものなら　もらおう　かな

若葉　　ありがとうございます

佑　　うん　いや　なんか　…こちらこそ

佑　　え、あの　え　これって、これで大丈夫なの？

若葉　　え？

佑　　いや　え？　俺が自意識過剰？

若葉　　どういうことですか

佑　　あの　俺はこの手の経験が正直薄いんですけど

…返事的なものはないか　しなくて　いいんですかね

若葉　　ああ　…ああ！

佑　　今日　改めて言ってきた　言ってくれたのもそういう　ことかなくて

若葉　　あの　そうですね、でも、ほんとに佑さんに何かしてほしいってことはないんです

佑　　なるほど？

若葉　　わたしは佑さんが好きで、これはたぶん、恋なんですよ

でも、じゃあ付き合ってこれからの人生うんぬん…とかじゃなくてよくて。

ただ　今日も、佑さんが佑さんらしくいるなとか、

佑さんがなんか楽しそうだなとか、そういう気持ちがあるだけで

毎日がちよつと、素敵になる感じはするなあと思います

わたしにとつての恋ってそれでいいんです

大きな、生活の基盤になりうるものではなく、ただ毎日を少しだけ

鮮やかにしてくれる気持ち。だから返事とかいららないんです。

佑　　それはそれでなんか　はずかしいね

若葉　　ですね(笑)　でもこれって、恋についてだけじゃなく、ぜんぶだと思えます

生活のぜんぶがなにかひとつだけで出来てることってあんまりないのかなって
だからこれから、いろいろ素敵なものを積み重ねて、

もう一回自分の世界の見方を思い出していければなあ　みたいな。

佑　　なんか　いいね、そういうのもね

若葉 ありがとうございます だから 佑さんをお願いすることがあるとした
…このまま 佑さんを好きでいてもいいでしょうか

佑 ……

若葉 ……

佑 それ、俺が答えることでもないんじゃないの？

若葉 そうですかね

佑 うん それは佐久間さんの勝手じゃん

若葉 そっか じゃあ、あの そういうことに させてもらいます

佑 ……ていうか、それでいくと 俺もたぶんそうなんだよね

若葉 え？

佑 俺は 俺の生活ぜんぶ、小説に振ってるつもりだけどさ

最低限の責任感を捨てられないとか、感想もらえりゃ嬉しいとか

それもきつと おんなじような話なんだろうね

若葉 そうかもですね あ、でもだから わたしは、そういう

いろいろがあるうえで佑さんがみてる世界が好きですよ

佑 わー はい ありがとうございます

若葉 こちらこそ

佑 それでいうと 俺も 都合がいいかもはしれないんですけど

若葉 はい

佑 恋愛的な意味ではないけど 佐久間さんから感想をもらったりとか、

正直俺にとつてはありがたくて

若葉 ほんとですか？

佑 うん まあ、だからなんていうのかなあ

それも俺の生活を構成する一部にはたぶんもうなっちゃってるので

…俺も 佐久間さんがいることをあてにしてもいいでしょうか

若葉 逆に いいんですか

佑 うん いやでも、好意を向けられてる側としてはけっこう最悪なこと言ってるよ

若葉 そういうとこ良識ありますよね

佑 ほんとね

若葉 でも わたしがわたしの生活の中に佑さんを置いておくのはわたしの勝手だし

逆もしかりですよ

佑 それもまあ そうか

若葉 だからもういいんですよ、これで

佑 今日、めっちゃくちや暇だね

若葉 そうですね

佑 今日に限ってって思ってた

若葉 たしかに

佑 うん

若葉 でもなんていうか わたし、ひまなシフトはきれいじゃないです

佑 そう？ まあ、そうかもね

若葉、スケジュール帳を開く

佑の本と見比べる

佑 それ スケジュール帳？ ずっと持ってるよね

若葉 え ああ、そうですね 大したものじゃないんですけど

佑 愛着わくよね、そういうの

若葉 そうですね あの、佑さん

佑 ん？

若葉 今日も よろしくお願いします

佑 え、うん よろしく、お願いします

別場面 佑、なにか作業をして、執筆した作品を提出

若葉の製本した本をみる